

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：水平線	種別：施設入所支援、生活介護、短期入所
代表者氏名：矢澤 公作	定員（利用人数）： 50名
所在地：〒253-0008 茅ヶ崎市芹沢786	
TEL：0467-54-5424	ホームページ：http://www.syonokai.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1996年5月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人翔の会	
職員数	常勤職員： 32名 非常勤職員 24名
専門職員	理学療法士 2名 栄養士 1名
	作業療法士 1名 臨床心理士 1名
	看護師 5名
施設・設備の概要	個室(30)、2人部屋(10) 浴室3、トイレ10、デイルーム1

③理念・基本方針

◇基本理念

誰もが地域で暮らせるために  
（大切にしたいこと）

1. 一人ひとりをかけがえのない存在として尊重します。
2. 本人を中心として寄り添う支援を行います。

◇基本運営方針

1. 利用者本人を中心とし、本人の意向を尊重した支援を行います。
2. 利用者の人格と性差を尊重した介助を行います。
3. 利用者の権利擁護とサービスの向上を目指して、事故と虐待を防止し、利用者の権利を守ります。
4. ソーシャルインクルージョンの理念に基づき、全ての人が地域の中で互いの生き方を尊重し合い、交じり合って生活ができる共生社会をめざします。その実現のため多職種他機関との連携を大切にします。
5. 職員のキャリアアップに努め、職員研修の充実を図ります。
6. 職員が安心して働き続けられる職場作りをめざします。
7. 適切な財務管理と会計処理システムに努め、信頼性の高い効果的・効率的な経営体制を確立します。
8. サービスの質の向上のため、リスクマネジメントの充実やコンプライアンスの徹底、情報公開による透明性の確保を図ります。

④施設・事業所の特徴的な取組

○脳性麻痺や脊髄損傷、脳血管障害など、重い身体障害のある利用者が生活する水平線では、ここでの生活をより良くするために、利用者の会「フレンド会」を月1回開催している。利用者の「思いを形に」というキーワードを大切にしたい支援を行うため、「フレンド会」から出た希望や意見をできるだけ早く実行に移し、「できた」「うれしい」という思いを実感してもらっている。利用者の思いを実現することは、スタッ

フの充実感や、やりがいにつながっている。

○利用者の平均年齢は60歳を超え、最高齢者も83歳で利用者の高齢化が大きな課題となっている。そのため、理学療法士や作業療法士によるリハビリテーションに力を入れて、筋力低下を予防している。リハビリ計画を作成して機能訓練を行い、心身の状態の維持、向上を図っている。機能訓練の様子は、ユニット会議やパート会議で報告し、業務連絡簿でも確認できるようにして、全スタッフに周知している。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月1日（契約日）～ 2024年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2014年度）

#### ⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○水平線は福祉総合援助施設「空と海」の1階にあり、脳性麻痺や脊髄損傷、脳血管障害など重い身体障害のある利用者50名が、5つのユニットに分かれて生活を送っている。利用者の8割が車椅子を利用し、利用者の居室は個室と2人部屋で、スタッフは「本人が主体」の生活を支援している。

○日中活動を希望する利用者には、アイロンビーズや自主製品の制作、レクリエーションなどのプログラムを用意して、本人が望む活動に参加できるようにしている。

○利用者20名は2人部屋を利用しているため、居室内をカーテンなどで仕切り、プライバシーを確保している。どの部屋を利用するかは利用者の希望を聞いて決めている。この人と一緒にの部屋にしてほしいと、開所当初から同じ利用者とは協力し合いながら、2人部屋で生活している方もいる。車椅子用に居室のドアは広く、電動車椅子を操作して出入りしている方は、好きな模様のカーテンを付けてプライバシーを守っている。居室内は、自分の好きな物を、好きなように配置し、住み心地の良い空間を作り上げている。スタッフが入室する際は、ノック、声かけをしてから、利用者とは向かい合って用件を伝えている。

○月1回、ユニット会議を開催し、不適切な行動や身体拘束がないか、スタッフ間で確認し、話し合いを行っている。また、3年前より30項目のチェックリスト「水平線あるある」（ノックをしましたか、おむつを置きっ放しにしていますか、通り過ぎませんでしたかなど、慣れてしまうと起こりがちな「あるある」をまとめたもの）を用いて、スタッフの意識、行動をチェックしている。「水平線あるある」の内容はリスク委員会で話し合い、スタッフにフィードバックしている。

○傾聴と共感を大切にしている。担当スタッフを中心に、日々の生活の中で利用者の話を傾聴し、話の内容によっては、場所を変えてコミュニケーションを取るようになっている。365日、24時間、共に過ごす中で、介助時に話を聞いたり、利用者が話しやすいタイミングを見つけて対応している。言語での表出が難しい利用者には、家族に聞き取りをしたり、日々のケアの中で身振り手振りから感じることを見落とさないように心がけている。

○起床や就寝、入浴など、利用者に合わせて同じ時間帯で行い、生活のリズムを整えている。1ヶ月の予定を掲示し、入浴、通所などの曜日を決めている。情報が得られにくい方に対しては、担当から個別に伝えるようにして、早めの連絡を心がけ、スケジュール管理の支援を行っている。利用者一人ひとりの状況に応じて、自力での生活の維持につなげている。外出の希望には、外出ボランティアを活用している。外出されない方の買い物のニーズに対しては、生協の宅配サービスを利用し、カタログから食品や衣類を選んでもらい、利用者が選択できるようにしている。

○毎月1回、食事サービス会議を開き、栄養士、食事サービス委員が委託業者との調整を行っている。毎食ごとに、利用者とはスタッフそれぞれが検食し、利用者の意見を聞

いて記録している。食事は各ユニットで摂取しているが、一人で居室で食べたいとの希望がある場合は調整し、状況に応じた対応を行っている。現場スタッフの声と本人の状態を見て、一人ひとりに合った自助具を活用している。毎月、体重測定を行い、栄養状態を確認するようにしている。食事サービス会議では、ボリュームやカロリー、形態（ソフト、ペースト、常食）など、利用者の状況を検討し、スタッフで共有するようにしている。開所当初より、毎週金曜日は、肉系か魚系かを選べる選択食に取り組んでいる。目で見えて分かるよう写真などを用意している。ご当地メニューやイベント食（ハロウィーン、おせち、クリスマス、年越しそば）を定期的に企画したり、利用者の母親からレシピを聞き、「お母さんメニュー」などを提供して、利用者が楽しんで食事ができるよう工夫している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

水平線ではあたりまえに行っている事について評価して頂き、スタッフの中でも、自分達が行っている支援について、肯定的なコメントが残されている事に自信を持つと共に、あらたに水平線の中で課題となっている部分に気づく事ができ、意義のある機会となりました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり